

《教育長メッセージ 第48号》

『秋』

10月は、晴れると20度を越える日がありましたが、11月に入り、朝夕は、次の季節を感じられるようになり、秋真っ盛りです。



市役所のまわりの木々は、葉が色づき、今が見頃です。これが、案外、見ごたえがあり、私は、この職に就いて4回目の秋、毎年、楽しみにしています。

みなさんも市役所にお越しの際は、南側駐車場の木々に目をやって、しばし、身近な秋を楽しんでいただければと思います。

海老名の紅葉の名所です。

さて、私たち人間は、着るものや空調設備で気温の変化に対応し、昼と夜の長さも電燈をつけることによって、それに左右されることなく生活することができるようになりました。

しかしながら、その分、知らず知らずのうちに、逆の意味での進化が進んで、季節の変化を感じる感覚が鈍くなっているのではないかと思うのです。どうでしょうか。

私の大好きな鳥たちは、いち早く季節を表現し、秋を知らせます。

今年、私に秋を知らせたのはモズです。

先月中旬ごろから、朝早く仕事をしていると、窓の外からけたたましい声で、「私はここにいる、ここは俺の縄張りだ。」と叫ぶ声が聞こえます。思わず、仕事の手を止めて鳴き声の方に目をやると、よく、梢のてっぺんで長いシッポを振る独特の姿を見ることができます。

また、10月後半に、母の用事で田舎（宮城県）に行くことになり、くりこま高原駅で新幹線を降りて、レンタカーを借りて南三陸町まで向かいました。

その折に、くりこま高原の駅のまわりや道すがらの伊豆沼、長沼のまわりの田んぼで、マガンの群れに出会いました。クウクウと鳴きながら落ち穂を啄んでいました。すでに冬の使者が、シベリアから飛んできていました。

この秋に、私は、あらためて、動物や植物は、自分たちの命をつなげるために季節を敏感に感じて季節とともに生きていることを実感し、自分の

鈍った感覚を実感したところでは。

ところで、今回の写真は、特別、今回かぎりのものです。これは、先日、姉妹都市の白石市の農業祭に行った時に撮った写真です。

お城のある町は、実りの秋であり、農業祭では、復刻版のササニシキをはじめ、多くの農産物が売られ、大いに賑わっていました。

まさに、白石の町が秋色に染まっていました。

11月、「小春日和」の日には、暖かな服装で散歩して、陽だまりを感じながら、身の回りの秋を楽しんでもらいたいと思うのですが、みなさんいかがでしょうか。

次回は、「郷土芸能」について、私の思いを述べてみたいと思います。